



マンガのこと

学級タイムで読書の調査をした時に、●●くんが「マンガを含めていいなら10冊以上なのに…」と言っていたが、まあ同じような諸君は結構いるのかも知れない。ただ、よくできたマンガは、下らない小説よりはよっぽど面白いので、勉強の気分転換としては、ドンドン読んでよいと思う。(ただし、それが勉強時間を圧迫したり、●●君のように机の周囲を散乱させるので困るのだが…笑)

私自身は、あまりマンガを日常的には読む方ではないが、話題になった作品(手塚治虫賞受賞作品とか)については「大人買い」して読むことは結構ある。夏休みに旅行した時、飛行機の中で「テルマエ・ロマエ」の映画版(阿部寛・上戸彩主演)を見たので、今はそれを大人買いしたいと思っている。

＊

好きなマンガ家は色々だが、やはり私たち世代にとって手塚治虫はずせない。「火の鳥」と「ブッダ」、「ブラックジャック」「アドルフに告ぐ」といったところか。(たくさんありすぎて思い出せない…)

私がマンガを積極的に読むきっかけになったのは、今は東大教授になっている友だちの影響が大きい。彼が最初に勧めてくれたのが大友克洋の「童夢」。「AKIRA」が有名だが、その原形みたいなものがこの作品にはあって、大友作品が好きなのはたまらない。

その友人が同じように勧めてくれたのが宮崎駿。今となっては巨匠であるが、彼は「ナウシカ」の雑誌連載が始まる以前から注目し

ていて、「ナウシカ」が劇場版となった時は、是非とも見ると推薦してくれた。それ以来、ミーハー的に宮崎作品は見ているが、一番好きなのは「ラピュタ」かな。もちろん「トトロ」も素晴らしい。

エリカ様主演、蜷川実花監督で映画化された話題の「ヘルタースケルター」の原作も面白い。岡崎京子さんの描く人物は魅力的だ。

多くの人が読んでいるに違いない「スラムダンク」も全巻読んだ。一番好きな場面は、陵南戦でめがねくんが3ポイントを決め、田岡監督が「ここにも3年間がんばったヤツがいた」とうなだれるシーン。思い出しただけでも涙が出そうである…。井上雄彦の作品では、「バガボンド」も全巻読んだ。

忘れてならないのは滝沢直樹の「モンスター」。これも大人買いして夢中で読んだ。ただ、途中のモンスターぶりの割には、結末がこじんまりとしてしまった印象か。「20世紀少年」も大人買いしてドキドキしながら読み進めた作品である。私は浦沢直樹は絵が好きである。「バスターキートン」もそのうち読みたいと思っている。

紙面も尽きたが、最後に文学好きな人に特薦しておきたいのは、高野文子の「黄色い本」。田舎の女子高生がマルタン・デュ・ガールの名作「チボー一家の人々」を読む進めていくというだけの単純なストーリーの短編だが、読めば読むほど味の出る絶品である。高野には「田辺のつる」というシュールな傑作もあり、ぜひ読むことを勧めたい。